

うということだね。(T・P)

(板書しながら)

自分の手紙が、ととのっているかな。

C<sub>10</sub> ととのっていません。

C<sub>11</sub> だいたいととのっている。

C<sub>12</sub> ととのっている。

T<sub>21</sub> ほんとに、ととのっている？

C<sub>13</sub> 半分。半分ととのっているかな。

T<sub>22</sub> それではね。最初に手紙をみて、これをみんなで見ても、どんなところを直したらよいか考えてもらってみましょう。だれの手紙だなんていわなくてもいいよね。(T・P)

T<sub>23</sub> 字が小さいですか。

C<sub>0</sub> 小さい。小さいなあ。ちっちゃい。

C<sub>0</sub> 口々に読む。だれの字。

T<sub>24</sub> 字は先生の。

C<sub>0</sub> へえー。

T<sub>25</sub> 写させてもらったの。

C<sub>0</sub> 読む。(小さい声を出す)(多くの子)

T<sub>26</sub> 中沢さんのところ、見える？ 読める？

ちょっと読んでみてください。

C<sub>14</sub> はい。大沼さんお元気ですか。私は元気です。……………(1分40秒) ゆっくり正確に読む。

T<sub>27</sub> はい。番号つけてみるね。(番号をつける) それではね。これをどう直したらよいか、ひとつ考えてみましょう。

最初、こんどは大きくします。(①の部分のみ大きく写す)

T<sub>28</sub> これ、①のところね。さっきの、①のところ。これは、どこか直すところありますか。

C<sub>0</sub> 何もないみたい。ない。(多くの子)

T<sub>29</sub> ないですか、なければ、直すところない、いいですから、ではね。これと同じ紙、さきほどみんなにくばりましたね。

C<sub>0</sub> はい。(多くの子)

(黒板に組み立ての用紙をはる)

T<sub>30</sub> いいですか。いまのはどこですか。この中で

ここで、小林のノートを写し(手紙を書くとき大事なことをつけること——前の表のわく中と同じ)を確認している。

この分節の終わりの方は、これから調べることへの関心を高めようとしている部分であるが、一部の子たちが、よく自分の手紙を吟味せず、軽く答えているのがわかる。

友だちの手紙をもとに、全員で、どこをどう書き直したらよいか考える。

全文をまずとらえさせている。

- ① 大沼さん、お元気ですか。わたしは元気です。大沼さんが北海道に転校していったから、三か月すぎました。
- ② はじめに三小の様子を知らせます。九月の三十日に、球ぎ大会がありました。三年生は、ドッジボールをしました。女はぜんぶのしあいに負けてしまいました。とてもくやしかったです。でも男ががんばったので、一組は二位になりました。それから、十月一日の学級会で、係をきめました。わたしは、給食係になりました。大沼さんは、そちらの学校で、何の係になりましたか。
- ③ 九月二十七日は遠足でした。はじめに、おろしうり市場を見学し、それから、りょうぜん子どもの村に行きました。りょうぜん子どもの村には、遊ぶところがたくさんあって、とてもおもしろかったです。とくにたのしかったのは、大きなすべり台でした。
- ④ 友だちとなんどもすべりました。
- ⑤ 先生も、みんなといっしょにすべりました。
- ⑥ 大沼さん、そちらのすみごちはどうですか。どんなところにすんでいるのか、教えてください。それから、学校の様子も知らせてくださいね。大沼さんに、また会えるといいな、と思います。
- ⑦ 谷上君と、高野さんが転校しました。でも、わくいけい子さんという人がきました。とてもやさしい人です。
- ⑧ ではからだに気をつけてください。さようなら。  
大沼さんへ  
○○より

「これをどう直したらよいか」という問に対し子どもたち全部、「はて」と、しばらく沈黙。

部分ごとに、直すところを考える。

①の部分<sup>を</sup>大きく写し出す。やっとな、考えていいこうという態度がでてくる。

- ① 大沼さん、お元気ですか。わたしは元気です。大沼さんが北海道に転校していったから、三か月すぎましたね。

この書き出しは、特に直すべきところがないということである。教師の予想も、そうであったこ